

SEL を実施する際の留意点

栗原慎二・山田洋平

AISES で販売している SEL の授業案は、これまでの私たちの実践の中で、実際にいくつもの学校で実施した授業案をベースにしています。販売するに当たり、それらをもう一度、理論的な観点から内容を精査し、イラストを加えて、すぐに使用できるようにしました。ですので、この指導案をそのまま使用することもできますし、学級の実態に合わせて一部を変更して使用することも可能です。

Q. 実際に授業を行うに当たって、意識した方がいいことは何でしょうか。

A. ポイントが二つあります。一つは、実際に子どもたちにやらせることです。これまで多くの学校や学級で指導をしてきましたが、どうしても教師が言葉で説明をしようとしがちです。先生の説明が 30 分で演習が 5 分では、スキルは身に付きません。スキルは実際に使ってこそ身に付くものだからです。もう一つは、振り返りの時間を大事にすることです。小学校高学年を過ぎると、いくら演習をしても振り返りが弱いと定着しません。振り返りの中で、自他への気づきと生活への汎化を考えさせて下さい。

Q. 学級の実態に合わせて一時間の構成を変えたりしたいのですが、注意する点はありますか。

A. あります。授業の演習を一部変更したり、イラストを代えたり、例話を代えたりすることは何の問題もありません。むしろ、学級の実態に合わせることは重要なことです。ただし、押さえるべきポイントがあります。それは、①導入→話し合い→モデリング→ロールプレイ→まとめ の順で授業が展開されているか、②ロールプレイを多く取り入れる。③状況説明の際には、「どのような気持ちですか？」など、感情への気づきを促す。④生活へのつながりを考えさせる、という四点です。

Q. 1 年間にどのくらい実践したらよいでしょうか。

A. これまでの実践を振り返ると、年間 7~8 回以上実施すると安定的な効果を示すことが分かりました。年間計画を立てる時には、実施できないことも含めて、月に 1 回、年間 10 回を基準にすると良いと思います。なお、10 時間を捻出することが難しい場合もあると思いますが、その場合は、朝や帰りの会を活用し、ミニ SEL として実践すると良いでしょう。月に 1 回 45 分の授業より、週に 1 回 10 分の SEL の方が効果的かもしれません。

Q. どのような基準で年間計画を立てると良いでしょうか。

A. SEL は、感情の理解、感情のコントロール、感情の表現 & 社会的スキル、問題解決に関する単元が含まれています。年間計画を立てる際には、全ての単元を含めるこ

とが望ましいです。その上で、学校や学年、学級の実態に応じて、多く扱う単元を決めるなどするとよいでしょう。

Q. 年間計画を立てる際に、SEL を実践する順番はありますか。

A. まず重要なのは、年間計画を立て、その計画に沿って実施するということ自体です。そうすれば、必ず成果は現れます。

このことを踏まえた上で、年間計画を決定する視点は 2 つあります。1 つ目は、人の行動までのプロセスに従った順序です。人が行動をするためには、まず自他の感情や状況などを入力し、自己の感情をコントロールしながら考え、③行動するというプロセスがあります。この順序に従えば、感情の理解、感情のコントロール、感情の表現&社会的スキル、問題解決という順序で実施することがよいでしょう。

2 つ目は、年間行事との関連付けです。SEL の目標は、学習したことが日常生活でも実践できることです。そのために学習したことを実践できる場を設定することが重要です。例えば、SEL で“話の聞き方”を学習する場合は、社会科見学や全校集会などで話を聞く機会がある行事の前に計画を設定することが考えられます。

Q. 実施する学年で重視する単元はありますか。

A. 学年によって重視する単元が異なり、小学校低・中学年では、感情の理解と感情のコントロールに関する項目、小学校中・高学年では、感情のコントロールと感情の表現&社会的スキルの単元、小学校高学年・中学校では、感情表現&社会的スキルと問題解決の単元を中心にするるとよいでしょう。ただし、中学生だからと言って感情の理解と感情のコントロールが十分とは限りませんし、この部分が育っていないと、感情表現&社会的スキルと問題解決がなかなか定着しませんので実態を踏まえて時間を考えて下さい。

Q. 攻撃的な子どもが多い学級では、どのような内容を扱ったらよいでしょうか。

A. 攻撃的な子どもは、他者の感情に共感する力が未熟であるという傾向があります。そのため、感情理解の単元にも他者の感情理解に焦点を当てるとよいでしょう。

Q. 引っ込み思案傾向の子どもが多い学級では、どのような内容を扱ったらよいでしょうか。

A. 引っ込み思案傾向の子どもは、自己の感情や思いを表現する経験が少ないため、自己主張のスキルが乏しい傾向があります。そのため、感情表現&社会的スキルの単元を中心に実践を進めるとよいでしょう。

教材の著作権は AISES に帰属します。個人購入・個人会員の方は他の方へのコピー等はお控え下さい。学校会員の方は学校内でコピー等をして活用することは自由です。